

蜂の巣ホテル

松木 拓也 (まつき たくや)
千葉県立市川工業高等学校 建築科



講評

チューブ構造は外郭部のフレームが建物の鉛直力と水平力のほとんどを負担する構造形式であるが、「蜂の巣ホテル」は外郭部のフレームをハニカム状に配置し、ファサードのデザインとして表現した作品となっている。

この作品は、ビジネスマン＝働き蜂の為のホテルであるとのこと、では、女王蜂はどこに？自宅にいるそうである。作者の願望が出ているのか客室のスペースはやや広めのビジネスクラスであるが、エコノミークラスのハニカム型カプセルホテルの方が働き蜂に合っているようである。何れにせよ仕事に疲れたビジネスマンがオフの時間を楽しく過ごせそうな魅力的なホテルになっている。

構造的には外郭のハニカム部材の節点が床面と合っていないなど改善の余地はあるもののチューブ構造の考え方に間違いはない。ファサードにおける正六角形の形状は階高と平面(外周長)の相互の関係が必然的に決まるので、そのモジュールが建築的に合致したもとなれば様々な形状へと展開し、プレキャスト構造への適用などデザインの可能性は広がっていく。建築計画の楽しさがここにある。

ファサードデザインによるビジネスホテルはあまり見掛けない。建築家になったら是非実現させてもらいたい。

(審査委員：貞弘 清英)

